

新年の挨拶



常陸大宮市長
鈴木 定幸



常陸大宮市議会議長
小森 敬太郎

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、令和4年の輝かしい新春をご家族おそろいで、健やかに迎えの心からお慶び申し上げます。

振り返りますと、昨年は東京オリンピック・パラリンピックでの、日本人の活躍など明るい話題もございましたが、地球温暖化などによるものと推測される各種災害の激甚化が目立った一年でもありました。

政府は昨年12月に、令和4年度予算編成の基本方針を閣議決定し、「危機に対する必要な財政支出は躊躇なく行い、万全を期す」と明記することで、積極的な財政出動を進めることを強調しましたが、本市におきましても東日本豪雨の本格的復旧・復興につきまして、国が主体となり実施しております「那珂川・久慈川緊急治水対策プロジェクト」の早期完了に向け、国県と連携し強力に推進しているところであります。このプロジェクトには大場遊水地をはじめとして、市民の皆様方のご理解とご協力が不可欠であります。皆様方の生命と財産を守る為の重要な事業でありますので、何卒ご協力の程、お願いする次第であります。

さて、私は市長に就任して以来、新型コロナウイルスの感染拡大防止と経済対策に力を注いでまいりました。また、人口減少問題を最重要課題と捉え、様々な施策の検討をまいりましたが、来年度がひたちおおみや未来創造アクションプランの改訂期となることから、政策プロジェクトとして3つの項目を計画に盛り込ませていただきました。

1つ目は「常陸大宮市に住みたい魅力あるまちづくり」であります。そしてその魁となるのが私の政策の1丁目一番地である「常陸大宮駅周辺整備事業」であります。昨年JR東日本など関係機関と協議を重ね、基本設計が完了し、現在は実施設計を進めているところであり、今後は東西駅前広場やアクセス道路、さらには高齢者等に優しいヘルスロードなど一体的に整備するための

準備を順次進めてまいります。

また、(株)ノーブルホームと締結した基本協定等に基づき、官民相互に協力・連携することで、子育て世代も視野に入れた住環境整備を推進し、お年寄りから子供たちまで誰もが快適に生活できる、お洒落で機能性の高い街づくりを常陸大宮駅周辺を起点に進めてまいります。

そして2つ目は「常陸大宮市で育てたい、子育て支援と教育の充実」であります。子育て支援住宅をはじめとした子育てしやすい環境整備に加え、子供達が学業やスポーツ、文化・芸術の面で、しっかりとした結果を残せるよう施策を展開すると共に、全力で支援をしてまいります。

最後3つ目は「常陸大宮市にきたい、新たな魅力の創出と磨き上げ」であります。本市には那珂川・久慈川という2つの一級河川をはじめ、御前山ダム、美和地域の山城など数多くの資源が点在しております。これら資源を現地からではなく東京をはじめとした多方面からの目線で発掘、磨き上げることでより新たな観光スポットとして、魅力として活用してまいります。

この他にも、子育て支援対策や高齢福祉など常陸大宮らしさを大事にしながら、誰もが安心して住み続けたいと思える常陸大宮市の実現に向けて邁進していく所存であります。

今だに新型コロナウイルス感染の収束が見通せない状況ではありますが、今日のコロナ禍による閉塞感を打破すべく、逆風を追い風に変えるような発想の柔軟性を持って、あらゆる課題に果敢に挑戦していく覚悟でありますので、市民の皆様方をはじめ、関係機関・団体の皆様方には、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びとなりますが、皆様方のご健勝とご多幸、そして実り多き輝かしい一年となりますことを心よりお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと存じます。

また、日頃から市議会の活動に対しまして、温かいご支援とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

議長を拝命し2度目の新年を迎えますが、より開かれた議会、市民の皆様と共に歩む議会実現のため、一層身を引き締めて取り組む覚悟でございます。

昨年を振り返りますと、一昨年同様、新型コロナウイルス感染症の対応に追われた一年であったと感じております。度重なる緊急事態宣言の発令により、国内外への移動自粛やイベント等の開催制限により、世界的なスポーツの祭典「東京オリンピック・パラリンピック」の開催さえ危ぶまれましたが、大半の競技が無観客での開催となったように、ここかしこに、コロナの影響は、社会生活、経済活動に大混乱、大打撃をもたらしました。

本市におきましても、さまざまなお祭りやイベント等の中止と公共施設や特に飲食店の利用においても制限が設けられるなど、感染防止のための人流抑制により、多くの影響を受けました。オリンピックのホストタウンとして取り組んできましたパラオ共和国選手団の事前キャンプも残念ながら中止となりました。市民の皆様におかれましては、あらゆる面で不安や我慢を強いられた一年であったことと拝察いたします。

このような中、昨年8月には、市議会として、市民の生命を守り、安心した生活と地域経済の早期回復を最優先課題として、市執行部と一丸となり感染対策に取り組むため「新型コロナウイルス感染症対策に関する緊急要望」を市長に提出いたしました。

未接種世代のワクチン接種の早期実施体制の整備や市民へのワクチン接種に関する正確で迅速な情報提供など、6項目にわたる要望をしております。

また、毎年実施しておりました議会報告会の開催も

コロナ禍の影響により一昨年に引き続き見送り、市民の皆様との意見交換の場が開けなくなっております。今後は新しい開催方法も検討し「市民に開かれた議会」の実現を目指してまいります。

本年は、市の最上位計画であります「総合計画基本計画(ひたちおおみや未来創造アクションプラン)」が新たにスタートします。各分野のまちづくりを進めるうえでの基本の指針としての役割を果たすものとなりますが、優先すべきは人口減少対策への取組であります。

特に、常陸大宮駅周辺整備事業をはじめとした重要施策に対しましては、市議会といたしましても、市政への監視ばかりではなく、民意を市政に反映できるよう、協調とけん制の下で緊張感を保ちながら、丁寧な対話を重ね切磋琢磨し、課題解決に向けて、一層の努力をしてまいります。

新型コロナウイルス感染症につきましては、医療従事者をはじめとする関係者の皆様のご尽力と市民の皆様のご協力によりまして、ワクチン接種も進み、感染者は減少傾向にあり、落ち着きを見せておりましたが、新たな変異株の発生により、第6波への懸念は日増しに強まっております。引き続き、一人一人が「三つの密」の回避、マスクの着用と手洗いや消毒、こまめな換気の徹底、黙食の励行など、基本的な感染予防策を続けつつ、「新しい生活様式」を実践していただきますようお願いいたします。

結びに、新しい年が皆様にとりまして、健やかで笑顔あふれる一年となりますようご祈念申し上げまして、新年のご挨拶といたします。